



TITLE:

The organizational analysis for quality improvement in neonatal intensive care in Japan( Abstract\_要旨 )

AUTHOR(S):

Sasaki, Hatoko

---

CITATION:

Sasaki, Hatoko. The organizational analysis for quality improvement in neonatal intensive care in Japan. 京都大学, 2018, 博士(社会健康医学)

ISSUE DATE:

2018-03-26

URL:

<https://doi.org/10.14989/doctor.r13170>

RIGHT:



(論文審査の結果の要旨)

我が国の極低出生体重児の予後には施設間差が存在する。治療成績の差は診療内容のみならず、資源や組織体制等も影響することが推測される。今回、全国40の新生児集中治療室の調査を通して、医師・看護師間コミュニケーション尺度の日本語訳の信頼性・妥当性の検証及び組織文化の特性を明らかにした。探索的因子分析の結果、医師は15因子、看護師は12因子が抽出された。下位尺度の信頼性は中～高程度であった。一部の下位尺度を除き、コミュニケーションの下位尺度と既存の医師・看護師協働尺度、コミュニケーション・対立マネジメントとパフォーマンスの下位尺度に正の相関がみられた。医師の組織文化は、集団と形式が発展と目標達成よりも強かった。看護師の組織文化は、形式が最も強く、次いで集団、目標達成、発展であった。

医師・看護師間コミュニケーション尺度は医師と看護師で因子構造が異なり、併存的妥当性と予測的妥当性は限定的であった。試用の際は信頼性・妥当性の検証の追加を検討し、慎重な利用と解釈に留意する必要がある。組織文化は医師ではチームワークと規則、看護師では規則を重視する傾向が強かった。集中治療室の効果的なチーム医療に不可欠な医師と看護師のコミュニケーション及び組織文化の評価は医療の質向上に新たな知見を示すと考える。

以上の研究は新生児集中治療室の組織特性の解明に貢献し、今後の新生児医療の質向上に寄与するところが多い。したがって、本論文は博士（社会健康医学）の学位論文として価値あるものと認める。なお、本学位授与申請者は、平成29年12月5日実施の論文内容とそれに関連した試問、並びに審査に対するレポートの評価を受け、合格と認められたものである。

要旨公開可能日：                      年                      月                      日以降